

データベース・マネジメント ～研修受講前テスト 解答～**■問題1【データベースの監視ツールとログ・ファイル】**

データベースの運用管理で利用する監視ツールやログ・ファイルについて、誤った説明を1つ選択してください。

- アラート・ログ・ファイルやトレース・ファイルには、データベースに発生したエラー情報などが出力される。
- データ・ディクショナリ・ビューや動的パフォーマンス・ビューを使用して、データベースの稼動状況や内部情報を確認できる。
- アラート・ログ・ファイルやトレース・ファイルはサイズ制限ができず自動拡張するため、ディスク領域を圧迫する可能性がある。
- Oracle Enterprise Managerを使用して、GUIでデータベース管理を行える。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>1-5 ～ 1-8、1-21 ～ 1-27

■問題2【データベースの起動と停止】

データベースの起動と停止について誤った説明を2つ選択してください。

- データベースのマウントに失敗した場合、CONTROL_FILESパラメータの設定ミスや制御ファイルに問題が発生している可能性がある。
- インスタンスが起動している状態では、データ・ディクショナリにのみアクセスできる。
- データベースを起動、停止するには特別な管理権限が必要である。
- データベースを停止すると、現行のトランザクションは必ずロールバックされる。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>2-1～2-10

■問題3【初期化パラメータの管理】

初期化パラメータの説明について誤った説明を1つ選択してください。

- 初期化パラメータによって制御ファイルの配置先や、共有メモリー領域のサイズなどを制御できる。
- 初期化パラメータの値を管理するファイルとしてOracle Database 9iまではinit.oraが使用されていたが、Oracle Database 10gからSPFILEが必須になった。
- 初期化パラメータの中には、インスタンス稼動中に有効にできるものと、停止しなければ有効にできないものがある。
- SPFILEは初期化パラメータの値を管理するバイナリ形式のファイルである。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>3-1～3-10

■問題4【ユーザーの管理】

データベース・ユーザーの管理について誤った説明を1つ選択してください。

- 一般ユーザーを作成する際、セキュリティの観点から必要最小限の権限だけを与えるべきである。
- 大量の同時ユーザーが接続することで遅延が発生しないよう、管理者はセッションを監視するべきである。
- ユーザーがデータベースを不正に利用しないよう、管理者はデータベースを監査するべきである。
- SYS、SYSTEMなどのユーザーでデータベースにログインする際、一般ユーザーとは異なる特別な認証を通過する必要がある。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>1-7 ~ 1-20、4-9 ~ 4-24、5-1 ~ 5-10

■問題5【ネットワーク接続の設定】

データベースへのネットワーク接続について誤った説明を1つ選択してください。

- ネットワーク接続を行うためには、データベース側でリスナー・プロセスを起動しておく必要がある。
- ネットワーク接続を行うためには、事前にネットワーク接続用の権限をユーザーに付与しておく必要がある。
- ネットワーク接続において必要なファイルはNet Configuration Assistantを使用して簡単に作成できる。
- ネットワーク接続において必須の設定ファイルはtnsnames.oraファイルとlistener.oraファイルである。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>6-1~6-8

■問題6【ユーザー・データ用表領域の管理】

表領域について誤った説明を1つ選択してください。

- 1表領域内のデータファイルのサイズは全て均一である必要がある。
- 管理者は表領域の空きを監視し、必要であれば空きを確保する必要がある。
- 表領域を作成する際、メンテナンスなどの観点から用途毎に分けて作成することが推奨される。
- 表領域の領域不足エラーを防ぐためにファイルの自動拡張を有効にできる。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>7-1~7-6

■問題7【データ・セグメント（表・索引）の管理】

データ・セグメント（表・索引）の管理について誤った説明を1つ選択してください。

- 表の再作成はハイウォーターマークを最適に調整する1つの方法である。
- 自動メンテナンスによって索引セグメントの構造劣化が問題となった際、索引を再作成するなどのメンテナンスが必要となる。
- 50%以上の表のデータを削除する際はTRUNCATEコマンドが有効である。
- 表の再作成は表の断片化や、行移行を解消するための1つの方法である。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>8-3 ~ 8-8、 8-11 ~ 8-18

■問題8【その他の表領域の管理】

その他の表領域の管理について誤った説明を1つ選択してください。

- SYSTEM表領域は特に重要な表領域であるため、読取り専用にすることが推奨される。
- 各表領域の領域不足エラーが発生しないように表領域全体の空きサイズを監視する必要がある。
- UNDO表領域では、COMMITしたUNDO情報を上書きせずに保持する期間を検討する必要がある。
- 一時表領域の一時セグメントは、最初に必要になった時点で作成される。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>9-1 ~ 9-10、9-19 ~ 9-24

■問題9【オンラインREDO ログ・ファイルの管理】

オンラインREDO ログ・ファイルの管理について誤った説明を1つ選択してください。

- オンラインREDOログ・ファイルのサイズは、チェックポイントのタイミングを左右する重要な項目となるため、適切なサイズを検討する必要がある。
- ログ・ライター・プロセスの書込み遅延が発生している場合は、グループの追加を検討する。
- オンラインREDOログ・ファイルはデータベースを停止しなければ削除できない。
- オンラインREDOログ・ファイルは、障害に備えて多重化することが推奨される。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>10-1~10-6

■問題 10 【制御ファイルの管理】

制御ファイルの管理について誤った説明を1つ選択してください。

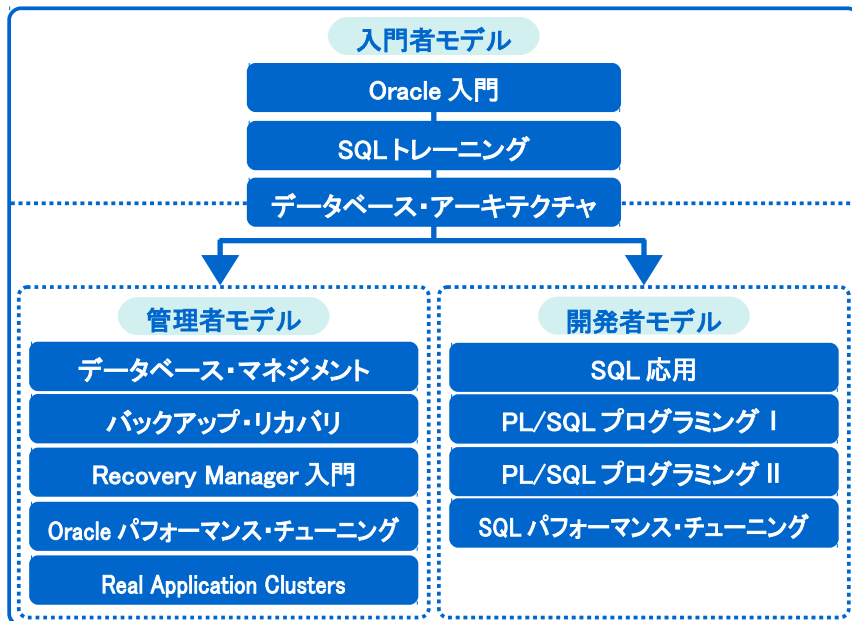
- 制御ファイルを複数構成し、オンラインREDOログ・ファイルのように循環利用することができる。
- 制御ファイルの物理的な位置はCONTROL_FILESパラメータで制御する。
- 制御ファイルは、障害に備えて多重化することが推奨される。
- 予め取得したトレース・ファイルを用いて制御ファイルを再作成できる。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>11-1~11-8

Information

アシスト Oracle 研修内容の詳細については下記ページをご覧ください。
<http://www.ashisuto.co.jp/ojt/course/oracle/>

アシストOracle研修受講モデル



<入門者モデル>

Oracleの基本構造やSQLの基礎構文など、Oracleの全体像を理解できます。新入社員や異動された方など、これからOracleに携わる方にぴったりのモデルです。

<管理者モデル>

管理者として必要な運用管理タスクの理解やバックアップリカバリ、システムチューニングの技術を習得できます。

<開発者モデル>

Oracleを使用した開発に必要なPL/SQLの習得、索引やSQL記述方法などによるSQLチューニング技術を習得できます。

※研修内容についてご質問がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

アシスト教育部：【TEL】0120-874-337 / 【FAX】0120-874-437/ 【E-Mail】 edusup_ora@ashisuto.co.jp